

	2007年	2008年	2009年	
①人口:600万人(2008年)	④実質 GDP 成長率(%)	7.8	7.2	6.5
②面積:23万6,800k㎡	⑤貿易収支(米ドル)	△8億3,500万	△11億7,700万	△9億7,500万
③1人当たり GDP:906米ドル (2009年)	⑥経常収支(米ドル)	△7億2,300万	△8億1,500万	△6億6,000万
	⑦外貨準備高(米ドル)	5億3,500万	6億2,200万	6億4,400万
	⑧対外債務残高(米ドル)	28億5,300万	25億6,400万	29億300万
	⑨為替レート(1米ドルにつき, キップ, 期中平均)	9,603.2	8,740.0	8,516.0

[出所]①～③:ラオス計画投資省統計局, ④～⑨:アジア開発銀行

## ■ 堅調な経済成長を維持

2009年のラオス経済は、12月の東南アジアスポーツ大会(SEA GAMES)の開催、2010年の遷都450周年記念による公共事業投資の拡大や観光客の増加などにより、実質 GDP 成長率は6.5%と高めの成長率を維持した。外国直接投資による水力発電、採鉱事業などの資源セクター開発も経済成長の大きな牽引力となっている。1人当たりの GDP は、2004年の428ドルから2009年には905ドルと5年間で倍増し、2010年の GDP 成長率は7.0%と予測されている。

## ■ 金融危機による影響で輸出入が減少

2009年度(2008年10月～2009年9月)の貿易は、前年度割れとなり、輸出は11億2,440万ドル(前年度比14.0%減)、輸入は10億6,580万ドル(21.9%減)となった。貿易収支を見ると、2008年には化石燃料の高騰、縫製原料の輸入増により5,740万ドルの貿易赤字であったが、2009年度は輸入の減少により5,860万ドルの黒字となっ

表1 ラオスの主要輸出入品目<通関ベース>

	(単位:100万ドル, %)			
	2008年度	2009年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額(FOB, その他含む)	1,307.4	1,124.4	100.0	△ 14.0
鉱物	774.2	523.6	46.6	△ 32.4
縫製品	255.0	141.7	12.6	△ 44.4
電力	97.1	274.6	24.4	182.8
木材・木製品	59.3	46.0	4.1	△ 22.4
農産物・家畜	60.3	87.1	7.7	44.4
輸入総額(CIF, その他含む)	1,364.8	1,065.8	100.0	△ 21.9
投資プロジェクト関連(機械等)	329.4	420.4	39.4	27.6
燃料・ガス	290.7	159.4	15.0	△ 45.2
縫製原材料	152.1	43.4	4.1	△ 71.5
工業用原材料	127.3	92.6	8.7	△ 27.3
車両	132.3	146.7	13.8	10.9

[注]年度は前年10月～9月。

[出所]ラオス商工省。

た。しかし、ラオスは国内供給力が弱いので、機械部品から一般消費財に至るまで近隣国からの輸入に依存しており、構造的な貿易赤字体質と言える。しかし、2010年には大型水力発電事業であるナムトゥン2ダム(1,070メガワット)の完成に伴い電力輸出が増加(輸出額見込み3億ドル)する予定で、今後電力開発や鉱物開発、プランテーション事業に伴う輸出が拡大することで恒常的な貿易黒字体質への転換が期待される。

輸出では、鉱物が依然最大の輸出品目であるものの、金融危機による銅、金価格の低迷から大幅減(前年度比32.4%減)となり、縫製品もEUからの受注の減少により44.4%減となった。輸出を国別にみると、電力輸出の伸びによりタイが全輸出の45.9%を占め1位、以下ベトナム(13.6%)、スイス(8.8%)、オーストラリア(8.3%)が続いた。スイスやオーストラリアへの主な輸出品は、金・銅・加工ダイヤモンドなどである。日本への輸出は全体の0.9%と依然少なく、主要品目は靴・縫製品、コーヒー、木材などである。

輸入では、縫製原材料(前年度比71.5%減)、燃料・ガス(45.2%減)、工業用原材料(27.3%減)が大幅に減少した。一方、機械など投資プロジェクト関連(27.6%増)や車両(10.9%増)のように、水力発電事業の建設機材や採鉱事業における掘削機械など大型プロジェクトへの投資増や所得の向上による需要増から、輸入が増加した品目もある。国別では、タイが全輸入の70.1%を占めており、次いでベトナム(13.1%)、中国(10.1%)となっている。韓国(2.0%)や日本(0.9%)からは工業用機械や車両およびその部品の輸入が大部分を占めている。

## ■ 対内直接投資、鉱業案件が急増

2009年度のラオスの対内直接投資(認可ベース)は208件、43億1,290万ドルで、前年比56件増、金額では3.4倍となった。業種別では、金、銅、ボーキサイト、リグナイト、

表2 ラオスの業種別対内直接投資&lt;認可ベース&gt;

(単位:件, 100 万ドル, %)

	2008 年度		2009 年度		2000～2009 年度累計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鉱業	17	102.1	37	2,280.5	202	3,162.1
サービス	18	23.6	30	1,055.1	226	1,402.3
農業	23	78.5	30	289.8	211	1,155.2
発電事業	3	640.0	4	218.3	47	4,153.1
工業	31	156.9	34	198.7	262	1,025.6
通信	1	32.5	1	83.8	5	156.2
銀行	5	43.0	8	77.0	23	165.1
ホテル・レストラン	8	29.4	16	44.2	85	235.4
建設	10	66.6	9	27.2	43	288.5
貿易	12	12.9	18	16.6	133	312.2
製材業	9	21.0	2	13.6	49	118.8
縫製業	5	5.1	2	1.2	40	30.5
コンサルタント	10	4.0	17	6.9	61	21.2
合計	152	1,250.8	208	4,312.9	1,387	12,226.0

〔注〕年度は前年10月～9月。

〔出所〕計画投資省投資奨励局。

鉄鉱などの鉱業が37件、22億8,050万ドルで、金額で前年度比22倍と急増している。鉱物開発事業はこれまで154社、269事業にコンセッションが与えられており、その採掘面積は288万ヘクタールにおよぶ。次いでサービス業30件(10億5,510万ドル)、天然ゴム、キャッサバなどの農業30件(2億8,980万ドル)、水力発電ダム開発などの発電事業4件(2億1,830万ドル)で、これら4分野で投資額の89.1%を占めた。国・地域別ではベトナムからの投資が最大で14億2,120万ドル(48件)、これに中国(9億3,290万ドル、47件)、タイ(9億860万ドル、37件)が続いた。特に近年ベトナムと中国からの資源セクターへの投資が急増しており、鉱業では80事業以上が中国からの投資となっている。一方、日本からの投資額は370万ドル(5件)と少ないが、タイや香港の日系現地法人を通じた進出は増加傾向にある。2009年11月にはビエンチャン日本人商工会議所が設立された。